

水道施設クラウド遠方監視システムについて

水道施設クラウド遠方監視システムとは給水末端の残留塩素濃度のほか水道維持管理指針に基づく24項目のデータ（井戸・配水池水位、配水流量、ポンプ運転状況等）を市役所パソコンや職員のスマートフォン・タブレットなどの携帯型情報端末で24時間365日確認でき、異常が発生した際にはメール通知され、故障等の状況や原因の特定が把握できるシステムです。

水道法では飲料水供給施設の衛生措置・水質検査では給水栓における水の残留塩素が0.1mg/L以上となるように塩素消毒をし、消毒の残留効果に関する検査を7日以内に1回以上行うこととなっており、従前では週2回職員が現地（市役所から約20km）へ採水・検査に行かなければなりませんでした。

また、施設は平成31年度に民間事業者から引き継いだ水道施設のため、平成31年度の施設管理は以前から受託していた業者へ一括して委託をしていました。

クラウドシステムの導入により日常の水質検査のため現地へ出向くことがなくなり、職員の負担軽減や施設管理内容を見直し、労務費や委託料の大幅なコスト削減となりました。

水道の維持管理については24項目の監視データを携帯型情報端末で随時確認、異常が発生した際も故障等の状況や原因の特定が把握でき、非常時には迅速に対応することが可能になりました。上水道施設と同様の管理が可能になったことによりシステム導入前と比べ水質管理等の安全性が大幅に向上しました。

削減効果（システム導入前 ⇒ 導入後）

- ① 採水・検査のために現地へ出向く回数 年104回 ⇒ 0回
- ② 労務費 @11,000×104回=1,144,000円 ⇒ 0円
- ③ 施設管理委託料
2019年度 2,502,588円 ⇒ 2021年度以降 約766,000円(見込み)

約1,736,000円の委託料削減！

クラウドシステム費用

- ① クラウドシステム使用料 年262,000円
- ② 通信料 年110,000円